

大学生と遊ぼう

# 夏のふるさと飯南町

8/21 火



そば打ち体験。うまくこねられるかな？

from I 代表の津和野勇貴さんは、「これからも私たちの育った飯南町に貢献していきたい。この想いを後輩たちにつないでいくことで、地域貢献の流れができていくと思う。後輩たちのサポートもしながら、私自身も楽しみたい」と話しました。



参加者の皆さん

交流センターとんぼらと冒険の森とんぼらを会場に、町内の小学生を対象としたイベント「夏のふるさと飯南町～大学生と遊ぼう～」が開催されました。  
飯南高校卒業生の有志団体「from I」が主催するこのイベントは、昨年度に続き2回目。参加した小学生14人と大学生16人は、そば打ち体験や水鉄砲大会などで交流しました。

# 人材育成塾はじまる

8/10 金

8/11 土

赤名農村環境改善センターで『好きなこと×地域によりこと』で地域が変わる」をテーマに、まちづくり講演会を開催しました。

講師は、福岡県で空き家活用・ゲストハウス運営・起業塾などで、東京から200人以上の移住者を呼び寄せている、津屋崎フランチェLLP代表の山口覚さん(福岡県)。「まちづくりを深刻なものとして捉えない。やってみよう、好きなことから始めてみては」と参加者に伝えました。



講師の山口さん



和やかな時間が流れる講演会

翌11日には、第1回人材育成塾が開催され、ファシリテーション技術を学びました。

山口さんは、「まちづくりのように、答えが分からない新たな課題に向かう場合、『対話』の姿勢が大切。『対話』は、意見をみんなで共有し、一人では考え付かない本質に近づくようにする話し合い。『討論』は、自分の意見が正しいという立場で、言葉で相手を打ち負かすこと。同じ話し合いでも全く違う。ファシリテーターは、話し合いを進行し、その話し合いが『対話』になるように進行しないとけない」と伝えました。  
この人材育成塾は、来年2月まで続く全6回の連続講座です。  
※ファシリテーター…会議などで発言を促したり、話の流れを整理したりして、話し合いを円滑に進行する人。

# 鳥根県知事へ要望活動

8月17日に、鳥根県知事に対して要望活動を行いました。重点要望項目は次のとおりです。

- ① 飯南病院の医療従事者の確保  
安心して暮らせる医療体制を維持するための継続した医師派遣や、看護師、薬剤師など医療従事者の確保
- ② 小さな拠点形成への支援  
協働のまちづくりの拠点として必要な複合的拠点整備や、デマンド型乗合タクシー運行、光ケーブル整備に対する財政支援
- ③ 農業振興に必要な支援  
農作物と生産技術の生産現場への普及や、各機関と連携した生産性向上につながる営農技術指導の充実。新たな森林経営管理制度の推進や、意欲と能力のある林業経営体の育成に対する支援
- ④ 町内企業・事業所を守るための支援  
民間事業者が主体的に取り組む「雇用と住宅の確保」や創業支援、事業規模拡大などに対して、町が支援する場合の有利な財源の確保



溝口知事に町の政策課題を説明

⑤ 広域道路網整備と「重点道の駅」の取り組みへの支援  
瑞穂・高野インターアクセスと新銀山街道の未整備区間の整備。国道54号線沿線の重点道の駅(赤米高原・頓原掛合の里・ゆめランド布野)が行う、相互に連携した国道54号線沿線の活性化のための取り組みへの支援

要望に対して溝口知事からは、それぞれの項目に対して財政支援や関係組織との連携支援、国への働きかけなど前向きな回答がありました。

■ 問合せ  
企画財政課 電話76・3941

# 飯南高校吹奏楽部 中国大会で金賞を受賞

8月11日に開催された、全日本吹奏楽コンクール鳥根県大会で「金賞・最優秀賞」を受賞した飯南高校吹奏楽部。

この結果、8月26日に岡山県倉敷市で開催された「全日本吹奏楽コンクール中国大会」に県代表として出場。2年連続となる「金賞」を受賞しました。

本番は1曲。10分にも満たないわずか数分間のために、仲間と積み上げてきた時間の成果が大きな輝きとなりました。



中国大会では2年連続2回目の金賞

# 通学路のカラー舗装

町内連担地の道幅は狭いため、車両と歩行者の通行箇所を明確にし、児童生徒などの安全に配慮した歩きやすい道路にするため、路側帯の上に「カラー舗装(色をついた舗装)」を施しています。

路側帯は、カラー舗装の有無にかかわらず車両の通行が禁止されていますが、道路沿いの家・店舗への出

入りや一時的な駐車、離合のための停車等はすることが可能です。  
歩行者と車両の安全な通行空間確保のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

現在、頓原小学校区(頓原連担地)、来島小学校区(三日市連担地)は整備済みで、今後、赤名小学校区(赤名連担地)、志々小学校区(八神連担地)でも整備を進める予定です。

■ 問合せ  
建設課 電話76・3942